

西の里中学校学校改善プラン

実施期間：令和4年11月1日～令和5年10月31日まで

- 学校教育目標
- ◎賢く・・・自ら学びつづける力
 - ◎優しく・・・豊かな感性と想像力
 - ◎たくましく・しなやかな心と体

令和4年度目指す生徒像達成のための重点 「**自ら考え 行動し 挑戦する生徒の育成**」

Research!(調査・探求) =本校の実態・課題=

■学習 《「令和4年全国学力・学習状況調査」「教研式NRT学力検査」等教科に関する調査から》

- ・全国学力・学習状況調査（中3）では、国語、数学、理科ともに正答率が全道全国を上回った。

各領域で◎～全国平均を上回った。△～全国平均を下回った。

【国語】

- ◎言葉の特徴や使い方に関する事項
- ◎我が国の言語文化に関する事項
- △情報の扱い方に関する事項
(評価の観点) △書くこと △読むこと

R4正答率

	国語	数学	理科
本校	70	54	53
全国	69	51.4	49
全道	69	49	49.3

【数学】

- ◎数と式 ◎図形 ◎関数 ◎データの活用
- △なし

【理科】

- ◎「エネルギー」を柱とする領域 ◎「粒子」を柱とする領域 ◎「生命」を柱とする領域
- ◎「地球」を柱とする領域
- △なし

全ての教科で全国平均正答率を上回った。これは研究部を中心に職員が授業改善に取り組んだことと数学、英語、理科の習熟度別学習や学習指導員・支援員の活用が成果として表れたものと推察する。一方、どの教科も共通して言えることは、文章又はグラフを読み取るような読解力や思考力を問う問題の正答率が低く、日常的な授業や課題等での更なる工夫が必要である。

<R4.4実施NRT平均偏差値>

	国語	社会	数学	理科	英語
1年	47.8	46.5	47.8	45.4	47.9
2年	51.0	51.9	49.8	53.5	51.9
3年	53.2	54.7	51.8	53.0	48.7

- ・標準学力検査では偏差値平均が3年生51.6 2年生51.6 に対して 1年生が47.1と1年生の落ち込みが見られる。1年生の知能検査ではアンダー・アチーバーが23%おり、学力向上の伸びしろは十分にあると考えられる。(アンダー23%、バランス70%、オーバー7%)

■生活 《「R4全国学力・学習状況調査質問紙」の結果から》

(高い項目) 朝食を毎日食べている・同じ時間に起きる寝る・いじめはどんな理由があってもよくない友人と協力するのは楽しい・読書が好き・理科が好き

(低い項目) 自分にはよいところがある・先生はよいところを認める・新聞を読んでいる・自分で計画を立てて勉強している・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている

(分析) 規則正しい生活、毎朝の朝食など地域性もあり、比較的落ち着いた生徒が多く、大きな問題行動も少ない。しかし、自己肯定感が低く、教師からあまりよいところを認めてもらっていない感じている生徒が多数おり、2年間のコロナ禍による学校行事の縮小は大きく関わっていると言わざるを得ない。学校行事に関してはその意義を踏まえ、中止とせず、縮小しながらも生徒の自己肯定感を醸成する取り組みを進めていく。また、スマートフォンの所持により、家庭での学習時間が大きく失われている現状も調査からうかがえる。スマートフォンの使い方など家庭との更なる連携が必要である。

Plan !(計画・準備) =具体的な計画・目標=

- 全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率を上回る。
- NRT標準学力検査で、各教科各学年偏差値50以上を目指す。
- 生徒の読解力・思考力を育成する研究及び授業改善
- いじめはどんなことがあっても許されないを100%にする。
- 家庭でのスマホ・パソコン使用について保護者に協力を願う。

Do !(実践・実行) =指導・活動内容=

「学習の意義を理解し、進んで学習に取り組む指導の充実」【学習】

- 進路指導を中心とした自分の将来に対して、見通しを持たせる学習の推進
- 総合的な学習を中心に、集団や社会に貢献するために個々の特性に気づかせ、伸ばす指導の強化
- 将来の展望に対し、見通しを持たせるためのキャリア学習の工夫と充実
- 夢や目標を持ち、それらに向かって力強く取り組ませる日常的な教育活動の支援
- 家庭学習定着補強対策～テストに向けた自主学習の指導の強化
- 各教科のオリエンテーション資料を家庭に配布しての家庭との連携の強化
- 生徒会学芸委員会による主体的な朝学習ベーシックテストの取組の推進

「日常生活の改善と充実」【生活】

- 全職員で積極的な生徒指導に努める
- ボランティア活動等積極的に推進し、豊かな心の育成に努める
- 「早寝・早起き・朝ご飯」等、基本的な生活習慣の確立に一層努める
- 保護者への啓蒙、情報発信等を通して家庭との連携を推進する
- 生活実態を把握し、生活改善を図るためにアンケート調査の実施と活用

「自己有用感の育成」【連携】

- 健連協や生涯学習振興会等、地域の教育力の活用を推進する
- 地域行事やボランティア活動に一層積極的に参加する
- 地域の各団体と連携した教育活動の工夫改善に努める
- 地域行事等に職員も様々な場面で関わりを深め、開かれた学校づくりを推進する
- 小中一貫教育教科部会で作成した教科系統表を活用する

Check !(評価・検証) =具体的な方策=

- チャレンジテスト・授業状況の分析等から課題・方策の再検証。
- 4月実施の全国学力・学習状況調査、標準学力検査の結果分析と校内研修。
- 各種学力検査・諸検査の結果分析、日常の学習状況、定着状況 ⇒ 目標の再設定。
- 月別評価点検簿、保護者アンケート、学校評価を活用しての見直し。

Action !(改善・行動) =具体的な方策=

1 授業改革の推進

- ①「思考力・判断力・表現力」の向上を目指して、研究部を中心に、授業公開に基づく研究協議を行い、指導法についての研修を深める。
- ②「対話」を重視し、全ての子どもが活躍できる授業改革を推進する。

2 個別最適な学びと協働的な学び推進

- ①効果的な習熟度別指導を推進し、指導法についての検証をはかり、改善に努める。
- ②教科教育相談、学級教育相談等を効果的に実施し、生徒一人一人の実態に即した指導を推進する。
- ③ICTを活用したe-ラーニングや学びポケット等の繰り返し学習や校内外の人々と繋がり学びを深める

3 指導計画等の改善

- ①指導と評価の一体化を常に意識し、目標に準拠した評価の実施に努め、常に改善の意識を持って授業に取り組む。
- ②年間指導計画について、教科部会において常に検討を行い、効果的な指導の推進に努める。